



INDEX

- ・[特集]循環器内科
- ・退任のご挨拶
- ・新型コロナウイルス
ワクチン「3回目接種」



〔特集〕 循環器内科

「ハート」のある医療で地域に安心を

当院の循環器内科では心筋梗塞や心不全、不整脈、大動脈疾患の診断・治療を行っております。重篤な疾患を発症した患者様に備え、昼夜問わず24時間受け入れできるように体制を整備しております。

嶺南地域では受け入れできる病院が少なく、移動距離があるために、発症から治療までの時間が長くなる事があります。当院では循環器疾患でカテテル検査・治療をされた患者様のうち、緊急のものが3割を占めるなど、突発的に検査・治療が必要となる場合があります。その中で、

当院では患者様の到着から治療までの時間ができる限り短くなるように、内科循環器内科医師2名、各職種スタッフ（臨床検査技師、診療放射線技師、看護師）が24時間体制で待機しており、医師からの連絡があれば早急にスタッフが集合し、検査・治療ができます。このようにオンコールからの検査・治療の早さは当院の強みだと考えております。また、担当看護師についてもIVR認定看護師がおり、放射線等を利用した検査・治療に対し、専門的な視点から患者さんへのケアが可能です。

処置後も患者様の回復に向けて、医師及び病棟看護師による万全なサポートをさせていただきます。特に、回復後の病気の進展予防及び予後改善を目的として、心臓リハビリテーション外来が設置されております。心臓リハビリ・運動療法は、心疾患による再入院や死亡の確率を減少させるのみならず、複雑な疾患を抱えた不安・抑うつを軽減し、生活の質を改善する効果を有しています。また食事療法、生活習慣への介入と心理的介入にも取り組み、高齢者や複雑な疾患を抱えた患者様にも個別に最適な医療の提供が可能です。

このように迅速な検査・治療からリハビリまでを当院で完結させることで、患者様の負担軽減に繋がるとともに、検査・治療からかわっているスタッフが回復に向けて万全な体制でサポートいたします。

新型コロナウイルスが、依然、拡大と収束を繰り返しています。その中で、急性期、慢性期いずれにおいても患者様の予後や生活の質に影響がでないように、日々地域医療機関の皆様とも連携を取りながら、医療に取り組んでおります。嶺南地域の循環器疾患の予防、改善に医療スタッフみんなで力を合わせて参りますので、今後ともよろしくお願いたします。

適切な循環器診療とリハビリで
人生100年時代に備える

心筋梗塞や心不全といった緊急性の高い疾患は、迅速な対応が治療効果に直結するため、当院では、365日24時間の受け入れ体制を保持しております。また、慢性期疾患の心臓リハビリテーションも行っており、患者様の再発予防、生活の質の改善や維持に貢献できるように取り組んでいます。

人生100年時代を迎え、高齢心不全患者様が大幅に増加する『心不全パンドミック』が迫りつつある一方で、治療薬や医療機器の発展によ

り循環器診療は成熟化傾向にあります。当院では嶺南の中核病院として循環器医師3名を中心に主な循環器疾患について診断・治療が可能です。また、外来リハビリや高度医療機関との連携によりバックアップ体制も充実しております。動悸、息切れ、胸痛などお困りでしたらまずは当院までご相談ください。

節制された食事と適度な運動で生活習慣の見直しを

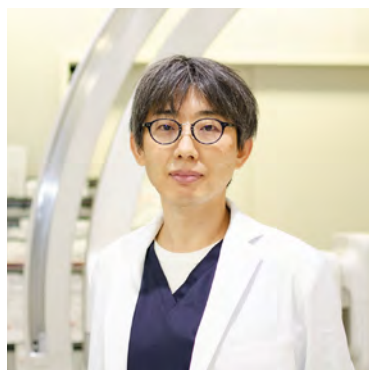
緊急性の高い循環器疾患ですが、リハビリ面においては「節制された食事と適度な運動」が重要です。

循環器疾患に対し処方するお薬には、服用により延命ができるようなものがあります。

当然、お薬には人体に有益な成分が入っておりますが、老化防止や滋養強壯の成分が含まれているわけはありません。特に循環器にて処方する薬の成分には患者様の生活習慣において特に多く摂取されている「塩、糖、脂肪」を排除する役割を持つものが多くあります。そのため、お薬を服用する以前に生活習慣を見直し、上記の3つの摂取を控えることで延命に大きな効果をもたらします。お薬を決まった時間に服用することも大事ですが、節制された食事療法も重要です。当院では管理栄養士による健康管理においても十分なサポートが可能ですので、是非ご相談ください。

また、運動できる体を維持することも重要です。少しでもいいので、できる範囲から始めていきましょう。運動は、認知症・うつ病及び細胞の老化の予防になります。当院の患者様についても、リハビリスタッフの万全のサポートのもと楽しく運動をしています。

循環器疾患でお困りの方は、是非当院までご相談ください。



深川 浩史 医長



岡部 佳孝 医長



三田村 康仁 循環器内科部長



医師・看護師・コメディカルが チーム一丸となって 地域の皆様の命を守る

心臓カテーテル検査・治療

胸痛等や胸部絞扼感を伴う有名な疾患は、狭心症や心筋梗塞が挙げられます。しかし、胸部症状を伴う疾患は一概に心臓だけとは限りません。それらを鑑別するために各種検査を行います。

鑑別検査の代表的なものは、採血検査や心電図検査、心臓超音波検査などがあり、これらの検査で異常を捉えた場合、必要に応じて冠動脈CT検査などを追加して行います。そして、さらに精密な検査が必要と判断した場合に、「心臓カテーテル検査」を施行します。心臓カテーテル検査とは、動脈の中にカテーテルと呼ばれる細い管を通していき、造影剤を用いてX線で撮影を行い、心臓の栄養血管である「冠動脈」に異常がないかを調べるものです。そして、異状を発見した場合に、心臓カテーテル治療を施します。

冠動脈異常の疾患である狭心症や心筋梗塞などの循環器疾患は、命に関わる非常に重大な疾患に位置します。また、これら疾患は、発症から

治療までの時間が重要で、迅速な治療が求められることから、我々病院スタッフは、24時間体制で待機しています。

これからも、医師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師がチーム一丸となって、地域の皆様の命を守ります。

北4階病棟

北4階病棟では、心疾患を主とする、急性冠症候群や、心不全、不整脈の検査や治療を行う患者様が入院されています。安心して心臓の検査や治療が受けられるよう、チームで連携を取り、質の高い看護を提供できるよう取り組んでおります。

心臓病で入院される方は、生活習慣に課題が見つかることが多くあり、食事、喫煙、飲酒、薬、運動など様々な要因が挙げられます。患者様の一番身近な存在として、治療をはじめとして仕事や趣味のことなどを含めたこれらの課題の解決にかかわらせていただければと思います。

患者様の1日も早い回復に向けて全力でサポートさせていただきます。

心臓リハビリテーション

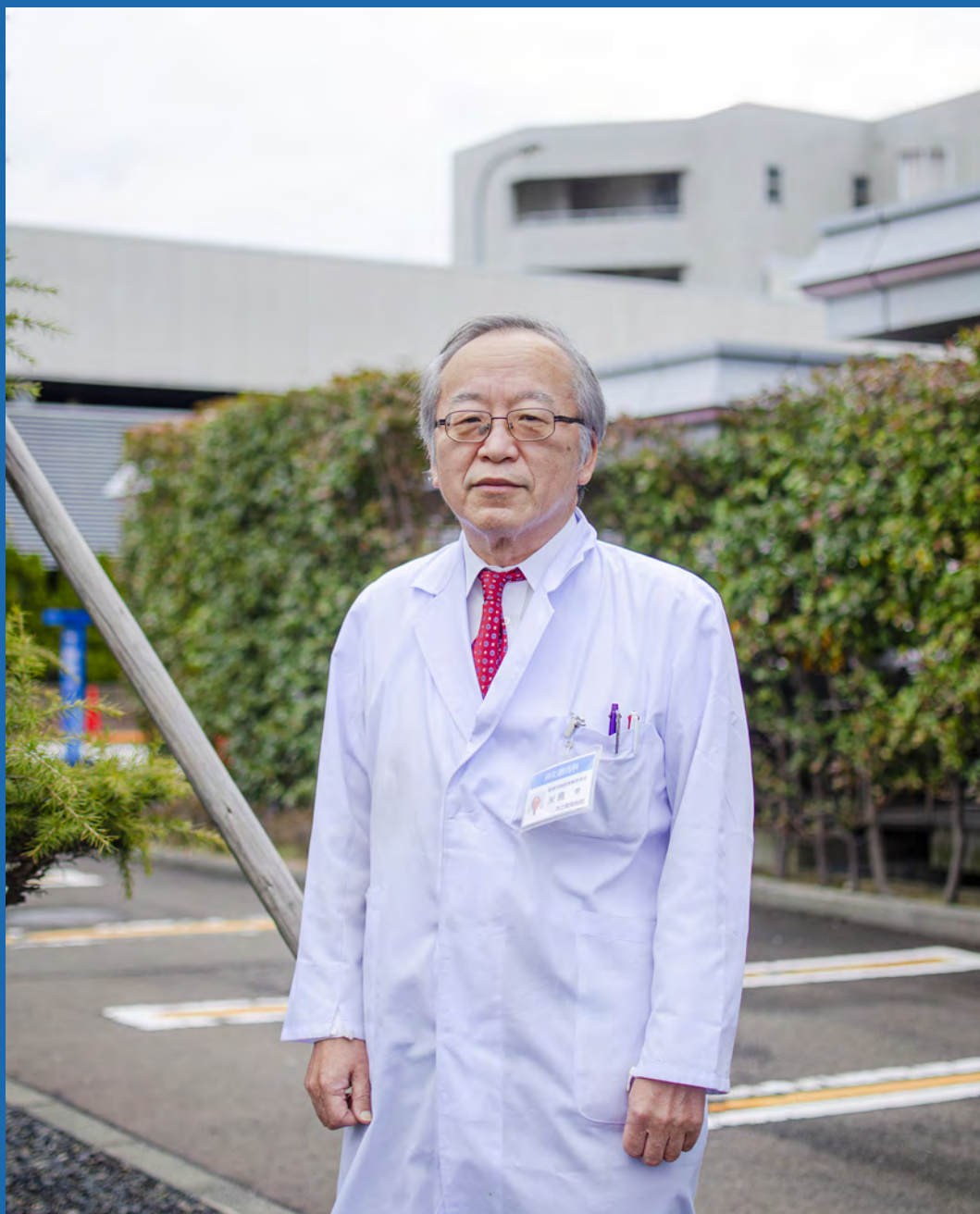
当院では入院中及び外来にて心臓リハビリテーションを実施しております。リハビリテーション実施の際には血圧や体重、体調の変化など心臓病が悪くなっている所見がないか確認した上で運動療法を実施します。心臓病が悪化している所見があれば、要因を患者様と共に考え、必要に応じて医師の診察や治療を早期に行うことで、再入院の予防に努めています。

当院は外来での心臓リハビリテーションと入院治療の対応が可能です。仮に入院になったとしても早急に入院・治療ができるため、入院期間も短く症状の悪化も最小限に留めることができます。

心臓病の大半の患者様は退院後、日常生活に戻ることができます。しかし、症状が分かりにくく、悪化しても目に見えないため、また同じことを繰り返すという心臓病の恐さも心に刻んで日常生活を過ごすようにしましょう。

退任のご挨拶

—
Retirement greeting



敦賀市病院事業管理者

米島 學

私は医師になって間もない頃、市立敦賀病院に赴任し、熊谷幹男先生をはじめとする多くの先生のご指導を受け、医師としての礎を築かせていただきました。その恩返しとの思いから、平成21年度から7年間は病院長として、平成28年度から6年間は病院事業管理者として、「自分がしたい医療ではなく地域が必要としている医療」の提供に取り組んで参りました。

病院長就任当初は、市民アンケートで病院の評判が悪いことに衝撃を受け、職員と共に接遇やコーチングの研修を行い、患者満足度の向上を目指したことを鮮明に覚えています。その甲斐もあり、直近のアンケートでは地域の皆様の評価が高くなっており、大変嬉しく思います。

また、日頃から職員に対し「当院は二州地区の唯一の総合病院であり、二州地区の入院医療の最後の砦であるという自覚と誇りを持って仕事をしたい」と言い続けてきました。それに応じてくれた職員には、本当に感謝しています。今振り返ると「地域が必要としている医療」の提供を貫いてきた13年間だったと思います。

在職時には、高齢化社会に向けて

地域包括ケア病棟を開設、訪問診療・訪問看護を開始しました。また先般のコロナにかかる様々な業務も引き受けてきました。このような「地域に必要としている医療」を追求した結果、就任時から大きな目標の1つであった経営改善について、令和2年度で累積欠損金を全て返還することができました。

過去には「紹介患者を断る」、「返書を記載しない」という現状から、地域医療連携強化のため、医師の指導に注力したことも、つい最近のことのように思われます。今後とも、地域医療の充実に向けて、開業医の先生及び各関係機関の皆様からのご理解・ご支援のほどお願いいたします。

4月からは石川県白山市の金城大学に勤務します。金城大学は福祉と医療系の大学であり、これからの福祉と医療を担う人材の育成に微力ながら邁進したいと考えています。

新事業管理者のもと、今後も病院の理念である「地域の医療を支え、信頼され温もりのある医療の提供」を続けますので、これまでと変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたしますとともに、敦賀市の医療の益々の発展を切に願っております。

History

管理者と当院のあゆみ

2009
↓
2022

- 平成21年 4月 市立敦賀病院 病院長として就任
- 平成23年 10月 救急科開設
- 平成26年 10月 地域包括ケア病棟開設
- 平成27年 10月 地域包括ケア病棟増設
- 平成28年 4月 地方公営企業法の全部適用へ移行 事業管理者兼病院長に就任
- 平成28年 6月 自治体立優良病院表彰受賞
- 平成29年 4月 形成外科 心臓血管外科を開設
- 平成30年 4月 訪問診療開始 特定行為指定研修機関に認定
- 平成30年 10月 市立敦賀病院訪問看護ステーション「つなぐ」開設
- 令和2年 11月 発熱外来を設置
- 令和3年 1月 乳腺外科を開設

新型コロナウイルスワクチン

「3回目接種」について

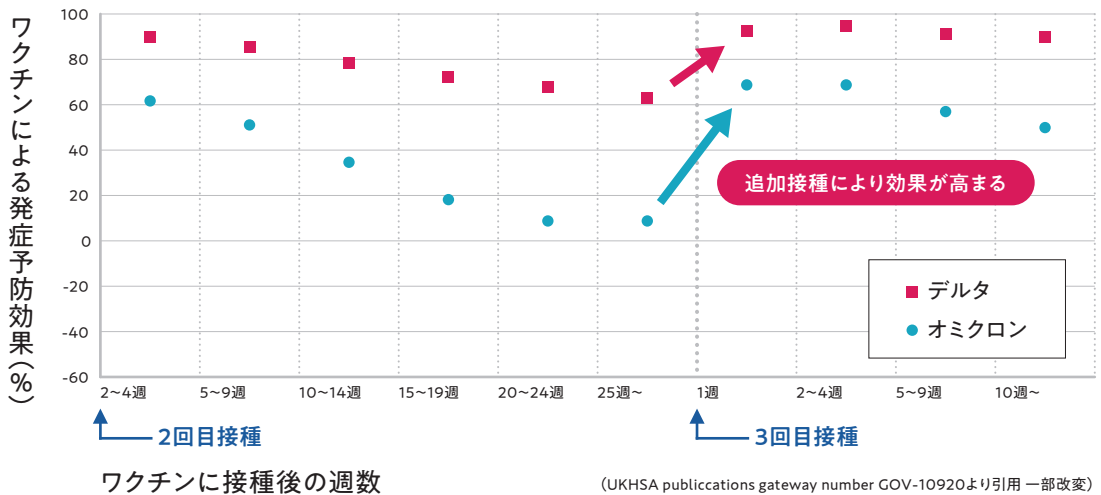
2022年1月下旬時点で新型コロナウイルスワクチンの2回目接種を完了した方は、全体で78.7%（65歳以上では92.2%）と多くの方がワクチン接種を受けられています。ワクチン接種はデルタ株等に対して発症予防効果があり、感染や重症化を予防する効果も確認されています。しかし、これらの効果は時間の経過とともに徐々に低下していく可能性が報告されています。

一方、発症予防効果が徐々に低下するものの重症化を予防する効果は比較的高く保たれることや、ワクチンを追加接種することで、ファイザー製、モデルナ製いずれにおいても低下した感染予防効果や重症化予防効果を高める効果があることが報告されています。追加接種による副反応は2回目接

種とほぼ同様の症状・頻度で出現することが報告されています。2回目接種とくらべて追加接種では、わきの下の痛みが5.03%、リンパ節の痛みが0.76%と、現れる頻度が高い傾向が報告されていますが、時間の経過とともに自然に治るとされています。

現在、日本を含む世界各地でオミクロン株の流行が報告されており、ワクチンによる発症予防効果はデルタ株に比べ低いものの、追加接種を行うことで効果を高めることができると考えられています。しかし、ワクチンの効果で感染を完全に予防することはできないため、引き続き、マスクの着用や手指衛生といった適切な感染防止策を行う必要があります。

mRNAワクチン(ファイザー)2回目接種後 追加接種によるワクチンの有効性



(UKHSA publications gateway number GOV-10920より引用 一部改変)

編集後記

「きらめき48号」を最後まで読んでいただきありがとうございます。今回は循環器内科及び事業管理者退任あいさつ、ワクチン3回目接種の有効性についてとりあげました。政府は3月下旬をもってまん延防止等重点措置を全面解除する方針を示しましたが、感染拡大状況はまだまだ予断を許さない状況です。新型コロナウイルス感染症対策も含め、今後も「きらめき」を通じて、当院を利用される皆様に分かりやすく情報をお伝えしていきたいと考えておりますので、今後とも愛顧賜りますようお願い申し上げます。



きらめき 市立敦賀病院 広報誌

発行：市立敦賀病院 / 企画・編集：市立敦賀病院広報委員会
©2022 市立敦賀病院
本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為はご遠慮ください。



市立敦賀病院
公式ホームページ
<http://tsuruga-hp.jp>